

IAUD Newsletter vol.15 第6号(2022年9月号)目次

1. 活動報告:標準化WG 体験型子供 UD 教育プログラムの開発…………… 1
2. IAUD 国際デザイン賞 2022 募集期間延長のお知らせ…………… 6
3. 国際会議 Include 2022 開催のご案内…………… 7
4. IAUD 2022 年 9 月の予定…………… 7

子供たちと更なる UD 社会の実現へ

活動報告:標準化研究ワーキンググループ 体験型子供 UD 教育プログラム開発



2021年1月、東大阪市石切小学校全教員に実施した「体験型子供 UD 教育プログラム」講演の様子

IAUD は、子供たちへの UD の普及啓発を目的に、2012 年から体験型子供 UD 教育プログラムの開発と現場での実装に取り組んでいます。

今号の Newsletter では、体験型子供 UD 教育プログラムに関するこれまでの主な活動について、標準化研究ワーキンググループの久保雅義メンバーが報告します。

子供たちから家族、地域へ UD を広げる

日本では、2011 年 4 月の「改正障害者基本法」、2014 年 1 月の「障害者権利条約の批准」、2017 年 2 月の「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」に基づき、2017 年 7 月に「心のバリアフリー学習推進会議」が開催され、学校における UD 教育の導入が問われ始めました。

IAUD では、政府の UD 整備計画の発布以前より UD 教育の重要性を認識しており、2012 年から地域の教育機関と連携して、体験型子供 UD 教育プログラムの開発と現場で

のフィジビリティ・スタディ(プロジェクト事業化の可能性を調査すること。以下FS)を福岡、東京、名古屋、大阪で実施してきました。

日本全国でUD教育

2012年8月から12月にかけて、IAUDの協同事業検討委員会は福岡市照葉小学校4年生128名を対象に「照葉UDワークショップ」を開催しました。

ワークショップでは、UDをテーマにした授業を3回と1回の社会見学、さらには教職員向けの研修会を2回実施しました。社会見学では、2014年11月に開催された「第4回国際UD会議2012in福岡」の展示会場を訪問しました。



照葉UDワークショップの発表風景

※照葉UDワークショップ開催報告は [IAUD Newsletter vol.5 第18号](#)をご覧ください。

2015年10月20日に、IAUDの標準化研究ワーキンググループは東京都江東区立第六砂町小学校4年生37名を対象に、1日のできるUD体験型ワークショップ「やってみよう！UD」を実施しました。

自ら体験して気づきを得られるプログラムとして、座学と車椅子、全盲歩行、色覚異常、色弱、高齢者、妊婦、外国人などの疑似体験、発表を90分で行いました。



UD体験型ワークショップの様子

※UD体験ワークショップ開催報告は [IAUD Newsletter vol.8 第9号](#)をご覧ください。

2016年6月から12月にかけて、標準化研究ワーキンググループは名古屋市立栄小学校と名古屋市立鶴舞小学校の4年生56名を対象に、「子供UDワークショップ」を6回実施しました。

ワークショップでは、座学と街調べ学習、UD企画展訪問などを行い、その成果を生徒が2016年12月に開催された「第6回国際UD会議2016in名古屋」で発表しました。



国際会議での子供UDワークショップ報告

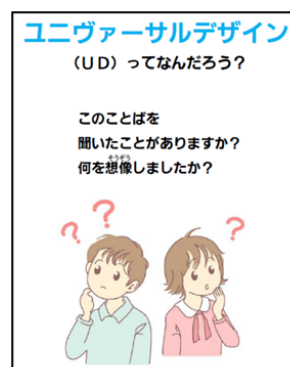
※子供UDワークショップ開催報告は [IAUD Newsletter vol.10 第7号](#)をご覧ください。

「体験型子供UD教育プログラム」作成

標準化研究ワーキンググループは、教育プログラムへの応募や教育機関からの問い合わせに対応すべく、これまでのFSを基に「体験型子供UD教育プログラム」を作成しました。

さらに、副読本「UDってなんだろう」や教員用スライド、UD教育指導要領なども整備しました。

副読本「UDってなんだろう？」→



副読本「UD ってなんだろう」は、UD の定義、高齢者や障害者が困っていることの事例、疑似体験のやり方について説明しており、言葉の表現や絵だけでわかる内容になっています。

体験型子供 UD 教育プログラム FS

標準化研究ワーキンググループは 2021 年 1 月 28 日に、東大阪市立金岡中学校で東大阪市内全中学校約 100 校の職員を対象に、「体験型子供 UD 教育プログラム」の講演を開催しました。

新型コロナウイルス感染症のため、他校の職員にはオンラインで実施し、当日都合のつかなかった学校には作成した動画を送付しました。

2021 年 7 月 30 日には、東大阪市立石切小学校全教員を対象に、「体験型子供 UD 教育プログラム」の講演を開催しました。

当初は 2 年生と 6 年生計 16 クラスの生徒を対象に実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症のため教員だけに講義を行いました。

さらに、2022 年 7 月 30 日には、広島県尾道市で開催された「日本人間工学会第 63 回全国大会」において、同グループ元メンバーと「子供 UD 教育のトライアル」のタイトルで研究発表しました。



金岡中学校での講演の様子

UD を知る、気づく、触れ合う、調べる・深める、話し合う、伝える

「体験型子供 UD 教育プログラム」は、①知る、②気づく、③触れ合う、④調べる・深める、⑤話し合う、⑥伝えるの 6 つのテーマで構成されています。

①知る:「UD ってなんだろう？」

UD を認識し、多様な人が不自由なく暮らせる社会を考えます。

導入として、副読本「UD ってなんだろう？」と教員用スライドを使用して、子供、大人、お年寄、大きい人、小さい人、妊婦、杖を突いている人、車椅子利用者、視聴覚障害者、外国人などいろいろな人が一緒に暮らしていることを理解します。

さらに、UD とは、「いろいろな人たちが共に楽しく快適に暮らせるよう、使う人の気持ちになってものを作った」「UD ってなんだろう？」の授業風景り、仕組みを考えたり、配慮して行動するということ」であることを理解し、最後に学んだ内容をまとめます。



②気づく:「体験しよう」

疑似体験で対象者にまつわる日常生活の色々な不便さを体得します。高齢者や障害者などの立場を体験することで、解決を考えるようにします。

疑似体験は以下のものを準備しており、学校からの要望にも対応可能です。

・車椅子利用者体験:段差、勾配、通路の幅、トイレの移乗、引き戸とスライド扉など。

- ・全盲体験：階段昇降、点字ブロックに沿っての歩行、しゃべる炊飯器、点字、凸文字、凸記号、スマートフォンメールの音声再生など。
 - ・色覚異常・色弱の体験：色弱模擬フィルタ「バリエントール」や弱視メガネを用いて、路線図や観光案内で色覚異常の不都合を確認。
 - ・聴覚障害者体験：手話、TVの文字表示、100ヘルツ騒音を確認。
 - ・妊婦体験：足元が見え辛い、バランスが取りにくい、寝転んだり立ち上がったたりなど姿勢を変える困難さを確認。
 - ・高齢者体験：リモコンやスマートフォン操作や運動能力確認。
- これらの疑似体験後、それぞれの当事者にとって不便で困る内容は異なることや当事者の立場を理解し、課題解決のために考えることなどを話し合っまとめてます。



高齢者疑似体験(左写真)と妊婦体験

③触れ合う：「当事者から話を聞こう」

当事者に直接、感じていることや困っていることを聞きます。

学校に当事者として視覚障害者や車椅子利用者を招き、普段使用している道具を紹介してもらったり、給食を一緒に食べたりして過ごします。

障害が特別なことではなく、不自由ながらも工夫して生活していることを知り、当事者の身の回りの課題を理解します。



当事者の生活を学び(左写真)、当事者から話を聞く

④調べる、深める：「公共施設で工夫されていることを探してみよう」

街に出てUDの実際を見つけて話し合い、なぜそうなっているかを確認します。

調査学習対象は、学区内にある駅や病院、ホテル、図書館、スポーツセンター、市民会館などに設置されている多目的トイレ、自動販売機、駅の改札、エレベータ、施設の案内表示などです。多くの人々が使う施設の配慮や心配りは十分か、まだ改善の余地があるのかなどを考えます。

生徒は5～6人程度に分かれ、誰にとって使いやすいか、誰にとってもう少し工夫が必要か調査します。合議制で、使いやすい場合は○カード、工夫が必要な場合は△カードを出し合っ理解を深めます。



駅の改札と車椅子の実際に気づき(左写真)、駅の段差とスロープの実際に調べる

⑤話し合う:「感じたことを言葉にしてみよう」

UD を自ら言葉にし、絵にすることで、みんなの理解を得ていきます。

一人ひとりの気づきを出し合い、共有し、グループメンバーが合意できるテーマを取り上げて解決策を考えます。

自分自身が感じたことを言葉にし、考えたことを絵にして、伝えて、理解したり話し合います。



課題を絵にしてみんなの理解を得る

⑥伝える:「学びを整理して身近な人から伝えよう」

これまでの学びを伝えるために振り返りを行い、発表します。子供目線で学び、感じたことを伝えることによって、UD を敷衍(ふえん)できます。

そのためには、アイデアや思いを繰り返し発信する精度を高めることも大切です。

また、発表はクラス内及び学校や自治体のイベントなどで行うとより効果的です。



国際会議で学びを発表する生徒たち

大人が気づかない新しい気づき

子供が不便を感じることは、日常大人が気づかない新しい気づきであり、子供 UD は有効です。例として、ドアなどが重い、インターフォンやタオルかけ、水道の蛇口など手が届かない設備、道路の段差や凸凹、高すぎて見にくい表示などが挙げられます。子供が不便を感じることで、車椅子利用者や高齢者の不便さを改めて確認できます。

また、UD 配慮の現状を再認識できます。リモコンやエレベータ、自動販売機などの点字表示の徹底や、段差が少ない、手摺・多目的トイレの配備など、公共建築のバリアフリーの充実の程度が改めて認識できます。

さらに、点字ブロック上の自転車放置など、子供が見つけた生活マナーの不完全さや課題も共有することができます。

そして、それら子供が発表することで、大人が気づかない点が再認識され、聴衆の共感を得ることができます。

改めて特定の誰かのために何かをするのではなく、多様な人間がいることへの気づきや



街での UD 配慮の気づき

街での UD 配慮の気づき

障害者とも一緒に生活していくという認識が持てることは、大きい成果です。

UD の次代を担う子供目線で社会問題を解決

「UDを知る、気づく、触れ合う、調べる・深める、話し合う、伝える」の文脈からなる「体験型子供 UD 教育プログラム」では、「UD を学ぶことではなく UD で学ぶこと」の重要性を顕在化することができます。

標準化研究ワーキンググループは、「体験型子供 UD 教育プログラム」を SDGs(持続可能な開発目標)など差し迫る大きい社会課題に対しても、子供たち自らの目線で解決を進める問題解決 FS として推進していきます。

そのために、各自治体の UD 関連教育プログラムへの応募などで使用事例を重ね、IAUD のホームページで情報を発信していきます。

同時に、「体験型子供 UD 教育プログラム」実施後に子供、教員、学校、地域への効果を検証して、UD 教育指導要領の精度アップにもつなげていきます。

また、今後は学校や教育委員会、地域の特性に応じて「体験型子供 UD 教育プログラム」の内容を調整したり、with COVID に対応する DX(デジタルトランスフォーメーション)を駆使した新たなプログラムの作成も検討しています。



持続可能な共生社会を目指して

IAUD 国際デザイン賞 2022 募集期間 9/30 まで延長

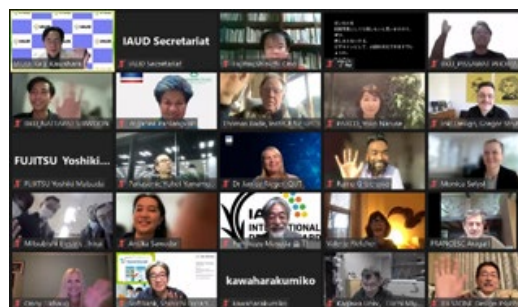
IAUD は、一人でも多くの方が快適で暮らしやすい UD 社会の実現に向けて特に顕著な活動の実践や提案を行なっている団体・個人を表彰する「IAUD 国際デザイン賞 2022」を募集中です。

今回で12回目となる「IAUD 国際デザイン賞」は、毎回、個人的なプロジェクトから企業による大規模なプログラムまで国内外より多くの応募があり、これまでに UD への理解の高まりを実証するような、優れた活動や製品が受賞してきました。

選考は英国、米国、ドイツ、ノルウェー、スペイン、タイ、日本を代表する 9 名の UD 専門家から構成される IAUD 国際デザイン賞 2022 審査委員会により行われ、最も優れていると判断したものに「大賞」、部門別に「金賞」「銀賞」「銅賞」の授与を予定しています。

ご要望に応え、第 1 次審査応募締め切りを 9 月 30 日(金)まで延長しました。皆様の応募をお待ちしております。

「IAUD 国際デザイン賞 2022」詳細は[こちら](#)をご覧ください。



オンラインで開催された「IAUD 国際デザイン賞 2021 プレゼンテーション/表彰式」

インクルーシヴデザイン主導のアプローチを考察 国際会議 Include 2022 オンライン開催のご案内

IAUD の友好団体である Helen Hamlyn Centre, Royal College of Art(英国王立芸術大学院ヘレンハムリンセンター)は、国際会議「Include 2022」を9月22日(木)と23日(金)にオンラインで開催します。



「Include」は、インクルーシヴデザインと人間中心の創造的アプローチにフォーカスした国際会議で、2001年から2年に1回開催されています。

11回目となる今回は「Unheard Voices」をテーマに、8つのセッションや論文発表などを通じて、デザイン主導のアプローチが社会的課題に対して果たす役割について考察します。

ご興味のある方は[公式ウェブサイト](#)をご覧ください。

IAUD 2022年9月の予定

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|------------|----|----|--------------------------------------|---------------------------------|----|----|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 敬老の日 | 20 | 21 | 22 | 23 秋分の日 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 14:50~ 衣のUDPJ 産業技術研究センター | 30 IAUD 国際デザイン賞 2022 募集締切 | | |

次号は10月上旬発行予定

特集:IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞紹介⑦ほか

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会

事務局:〒225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110

電話:045-901-8420 FAX:045-901-8417 e-mail:info@iaud.net